

拝中だより

学校だより（8月号）

令和元年8月30日

昭島市立 拝島 中学校

昭島市緑町2-2-12

☎042-541-1040

心のバリアフリー

校長 齋藤 真

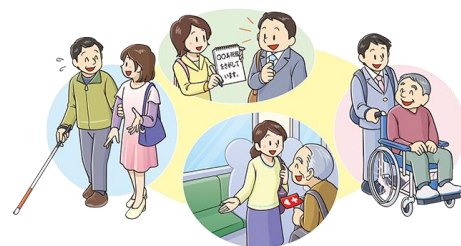
今年の夏休み、皆さんにとっては、どんな夏休みだったでしょうか。何かに一生懸命になったり、夏休みだからこそ取り組めたことはありましたか。2学期が始まりました。自分に厳しく、学校生活のリズムを取り戻しましょう。また、悩んでいることや心配なことがあり、自分では解決するのが難しい時は、どんなことでも、先生やスクールカウンセラーなど、大人に相談して解決してください。

東京パラリンピック開催まで1年を切りました。先日、テレビニュースで、全国の障害者を対象に行った意識調査の結果を伝えていました。パラリンピック大会への取り組みが行われているが、「障害者に対する理解は進んでいない」と答えた人が半数に上り、その割合はおととしの調査より増えていると言うのです。専門家は、「より多くの人たちが障害者にちょっとした心配りをできるような、心のバリアフリーが広がってほしい」と指摘していました。

私たちの意識はどうでしょうか。障害者にちょっとした心配りができているでしょうか。自分とは違う人、とくに障害者に限らず、高齢者や弱い立場の人をバカにしたり、差別していないでしょうか。あるいは、人の失敗や苦手なことを笑い、いつまでもからかいの材料にしたりしていないでしょうか。もし自分が障害者だったら、失敗したことや苦手なことをいつまでもからかわれたら、どんな気持ちになるでしょうか。誰もが互いに人格と個性を尊重し合い、安心して生活することができる「共生社会」を実現させるためには、私たち一人一人が意識を高めていかなければなりません。

来年の東京オリンピック・パラリンピックに向けて、競技施設の建設や公共交通機関の整備が行われ、障害者や外国人を含めた、みんなにやさしい街作りを目指したバリアフリー化が進んでいます。いろいろなバリアを取り除いていくことは、人々の知恵とお金である程度までは可能です。しかし、心のバリアフリーには、お金はかかりませんが、人々の意識改革と時間が必要です。

それでは、私たちはどうしていけばいいのでしょうか。障害の有り無しにかかわらず、それぞれ違った個性をもった人たちと一緒に生活をする中で、互いの得意、不得意を認め合い、助け合い、支え合うこと。差別したり、人の失敗や苦手なことをバカにしたり、からかい続けたりしないこと。そうすることで少しずつでも確実に「心のバリアフリー」が広がっていくはずですよ。



2学期は、体育大会、合唱コンクールがあります。運動が苦手な人や歌が苦手な人がいる中でも、みんなで楽しく取り組み、クラスの団結、仲間との絆を深め、充実した学校生活を送ってほしいと願っています。